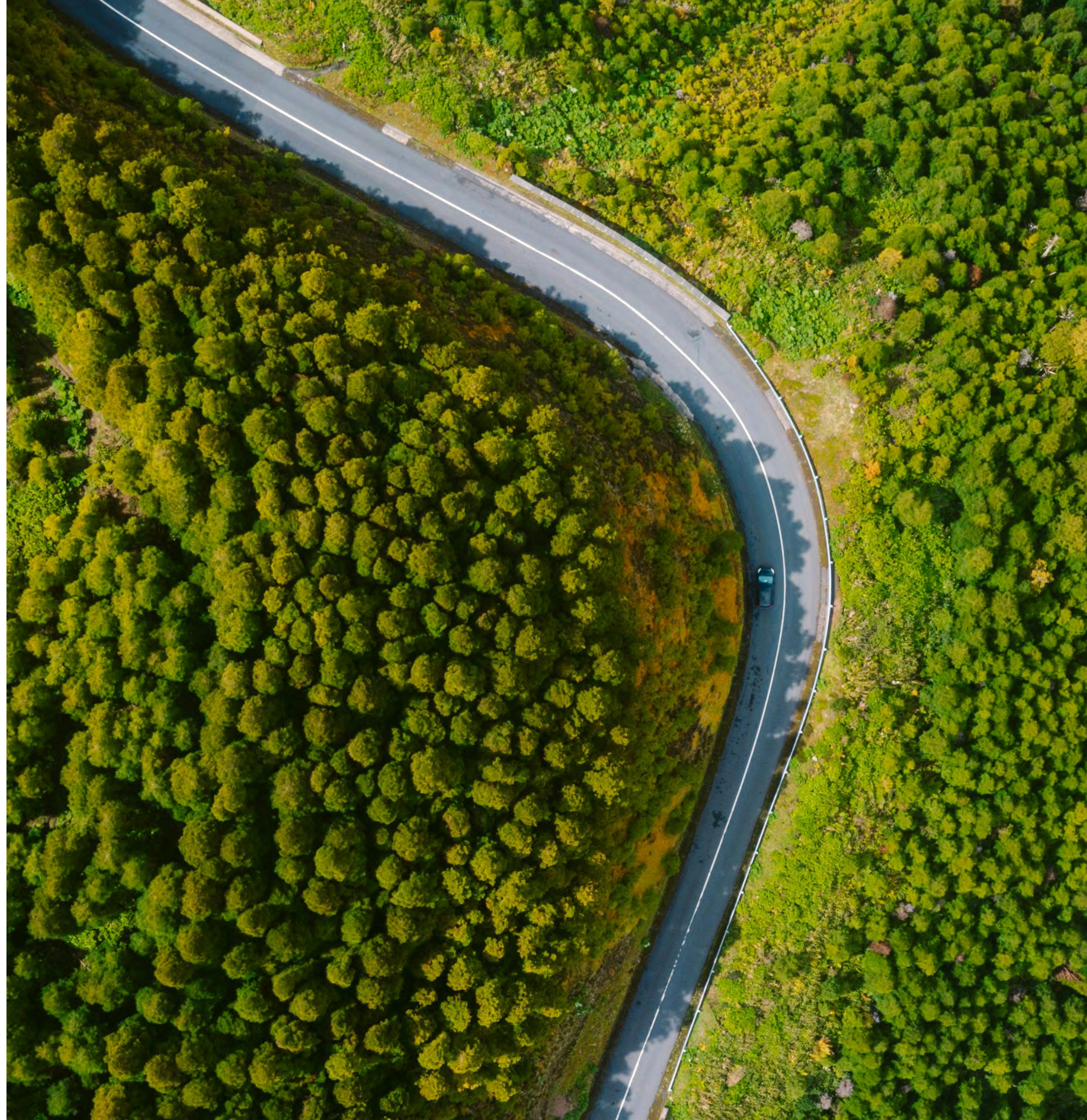


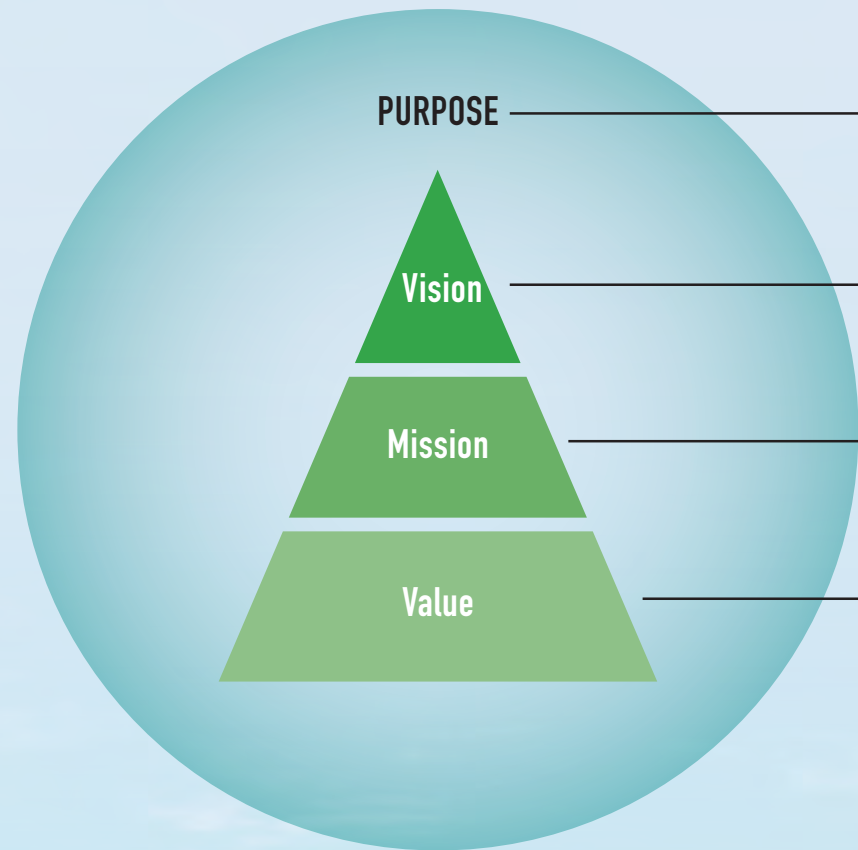
NIPPON SEIKI
Integrated Report
2024

日本精機株式会社
統合報告書 2024



日本精機グループの理念体系

企業理念体系



PURPOSE

私たちの存在意義

安心と感動に満ちた世界と未来をつくります

Vision

私たちの目指す姿

つながる技術で、インターフェースの価値を創造する企業を目指します

Mission

私たちの使命

みえないものをみえるようにします

みえない「モノ」と「コト」をはかり、「ヒト」に最適な製品とサービスを届けます

Value

私たちの価値観

01 新たな技術への挑戦

イノベーションで次世代の価値をつくります

03 人にやさしく、地球にやさしく

人と地球に寄り添い、持続可能な社会をつくります

02 品質へのこだわり

顧客の期待に応える品質をつくります

04 たゆまぬ誠実さ

すべてのステークホルダーと信頼関係をつくります

経営理念

**筋肉質な企業としてチャレンジを続け、
社会と企業の持続的な繁栄に貢献します**

企業理念体系の再構築について

2024年4月より企業理念体系を再構築し、パーパス等を新たに制定いたしました。日本精機グループを取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、今後の持続的な成長を図るべく、これまでの理念体系をより一層“日本精機らしい”内容に再構築し、制定いたしました。制定にあたっては取締役・役員・部長などの階層ごとに当社グループが社会に対し長期的・持続的に価値を提供するにはどうあるべきかの協議を重ねてまいりました。

新たな企業理念体系をステークホルダーの皆様と共有させていただくと共に、持続的な社会と企業の繁栄に貢献する企業グループとして、これからも事業活動を推進し、発展させてまいります。



安心と感動に満ちた
世界と未来をつくります



CONTENTS

01 日本精機グループの概要

- 03 日本精機グループ沿革
- 04 日本精機グループ概況
- 05 財務・非財務ハイライト

02 日本精機グループの 価値創造プロセス

- 06 トップメッセージ
- 09 中期経営計画2026
- 10 日本精機グループ サステナビリティ方針
- 11 マテリアリティ
- 12 価値創造プロセス
- 13 日本精機グループの事業

03 ESGに関する取組み

- 18 ESGに関する取組み
- 19 環境への取組み(E)
- 21 社会への取組み(S)
- 24 コーポレートガバナンスへの取組み(G)
- 26 社外取締役対談

04 財務諸表

- 28 財務諸表

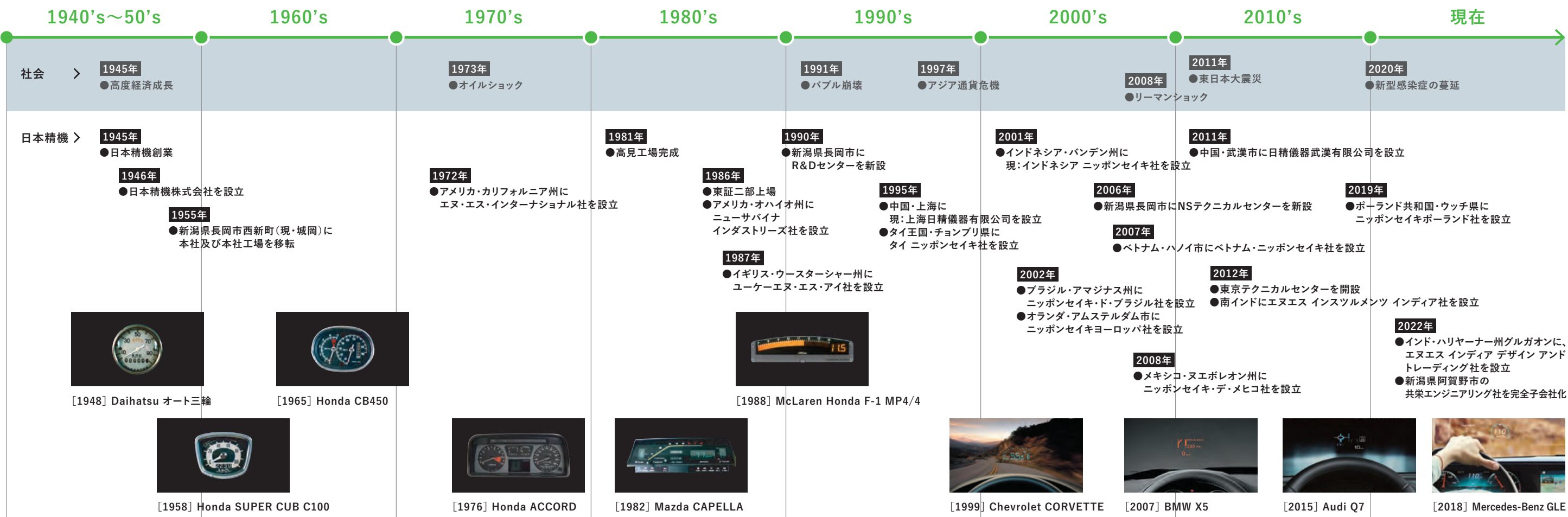
05 役員紹介 / レビュー

- 31 役員紹介
- 31 統合報告書レビュー

見直しに関する注意事項

当報告書に記載されているデータや将来予測は、当報告書の発表日現在において入手可能な情報に基づくもので、様々な要因により影響を受けることがあり、実際の業績は見通しから大きく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述に全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、当社は新しい情報・将来の出来事等に基づきこれらの将来予測を更新する責任を負うものではありません。

日本精機グループ沿革



外部環境と企業価値の変遷

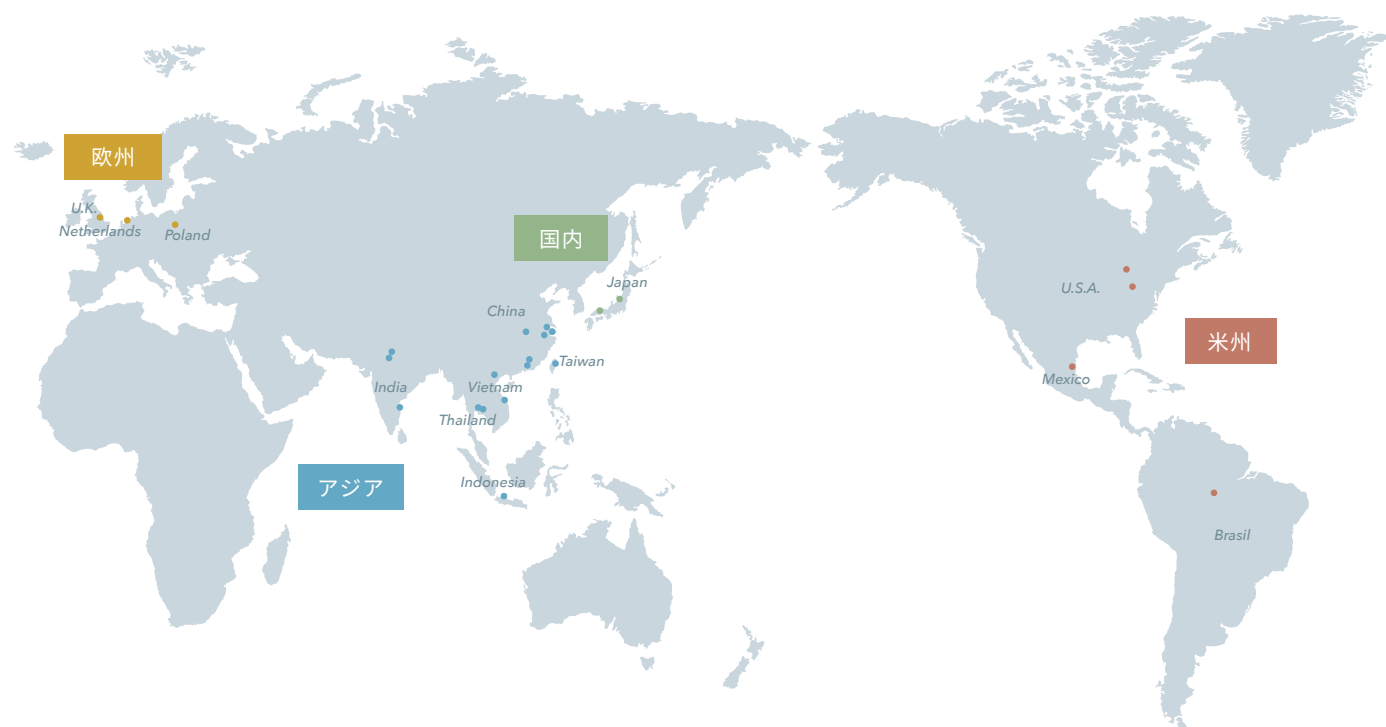


日本精機グループ概況 [2024年3月期]

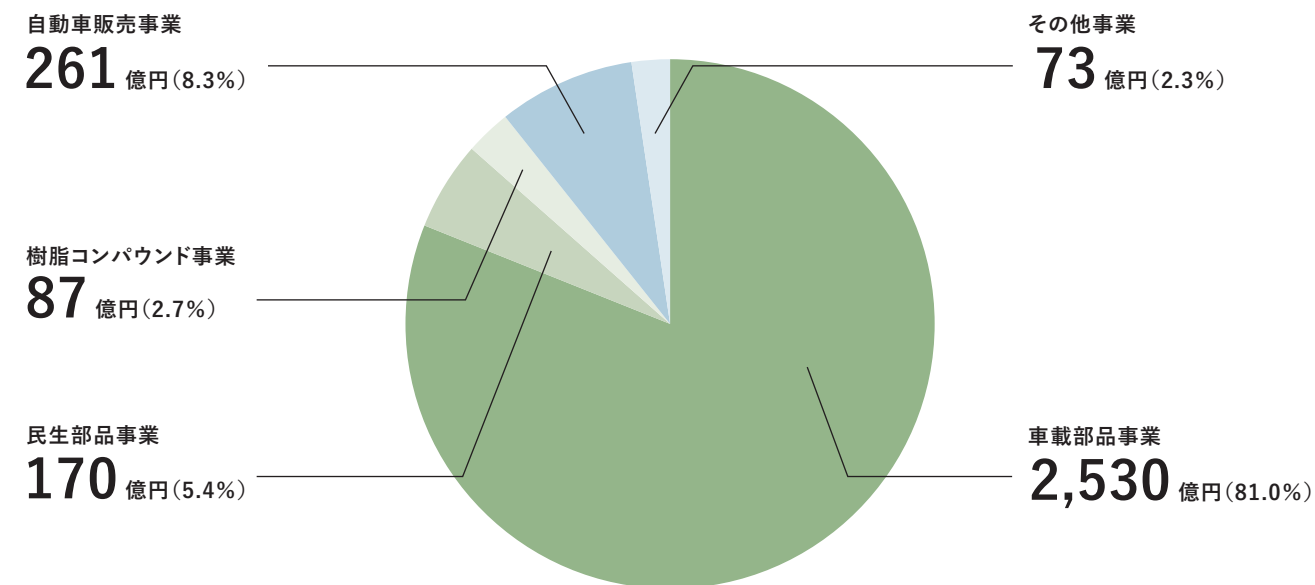
地域別売上・従業員数 (売上: 億円未満切り捨て)



日本精機グループネットワーク



セグメント別売上高 (億円未満切り捨て)



日本精機グループ概況

2024年3月期 経営成績の概況について

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経済環境は、半導体ひっ迫の緩和によりサプライチェーンの正常化が進み、全体としては緩やかな回復基調となりました。日本国内では緩やかな景気回復が見られ、米国ではインフレの高止まり懸念はあるものの、依然景気は堅調に推移しています。中国では不動産不況や個人消費の落ち込みによる経済の停滞が見られ、欧州諸国においてはインフレ率が鈍化傾向ではありますが本格的な回復には至っていません。

このような状況において、当社グループは、将来に向けた車載用計器等の設計・製造技術を中心に、高度な専門技術を蓄積・進化させてまいりました。また、持続的な利益創出を実現すべく原価低減活動及び販売価格の適正化に一層の重きを置き、より無駄のない筋肉質な企業体質の構築を推進いたしました。当連結会計年度の売上収益は、312,355百万円(前期比13.3%増)、営業利益は、8,484百万円(前期比211.0%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は、5,300百万円(前期比305.8%増)となりました。売上収益は、半導体ひっ迫の緩和による生産台数の増加と北米や

アセアンにおける堅調な需要により増収となりました。営業利益は販売台数の増加に加え、原材料などの費用高騰分を適切に販売価格に反映する交渉の進展やグループ全体で取り組んだ無駄を省いた筋肉質経営の効果で増益となりました。親会社の所有者に帰属する当期利益は、営業利益の増加により増益となりました。

車載部品事業は、四輪車用計器、二輪車用計器等が増加し、売上収益は253,032百万円(前期比16.7%増)、営業利益は6,265百万円(前期比431.6%増)となりました。民生部品事業は、空調・住設機器コントローラー等が減少し、売上収益は17,082百万円(前期比10.4%減)、営業利益は591百万円(前期比56.2%減)となりました。樹脂コンパウンド事業は、樹脂材料の販売が増加し、売上収益は8,732百万円(前期比0.1%増)、営業利益は538百万円(前期比239.6%増)となりました。自動車販売事業は、新車販売等が増加し、売上収益は26,175百万円(前期比11.9%増)となりましたが、営業利益は821百万円(前期比24.7%減)となりました。その他は、物流サービス等が減少し、売上収益は7,332百万円(前期比5.3%減)となりましたが、営業利益は899

百万円(前期は708百万円の営業損失)となりました。

財政状態の概況について

当連結会計年度末の資産については、棚卸資産が増加したものの、その他の金融資産の減少等により、前連結会計年度末と比較して17,601百万円減少し、338,632百万円となりました。

負債については、社債及び借入金の減少等により、前連結会計年度末と比較して40,281百万円減少し、109,577百万円となりました。

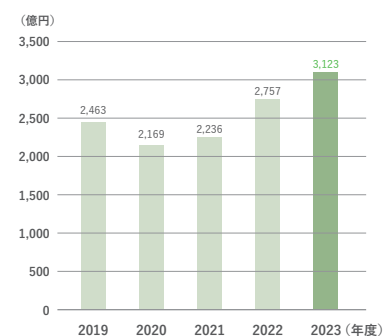
資本については、その他の資本の構成要素の増加等により、前連結会計年度末と比較して22,679百万円増加し、229,054百万円となりました。

棚卸資産については、近年の電子部品の逼迫より、顧客の生産ライン維持のための安全在庫確保、部品サプライヤーからの長期契約の要請などにより増加しております。しかし、電子部品の逼迫は緩和に向かいつつあり、当社としても管理手法の見直しにより在庫圧縮に取り組み、最適な在庫水準を目指してまいります。

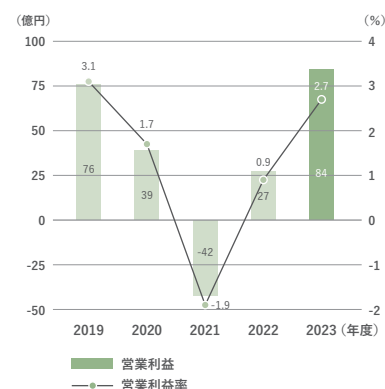
財務・非財務ハイライト [2024年3月期]

財務

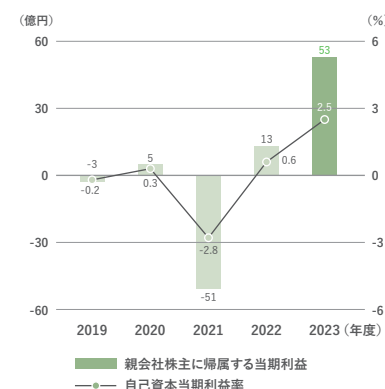
売上収益(億円)[連結]



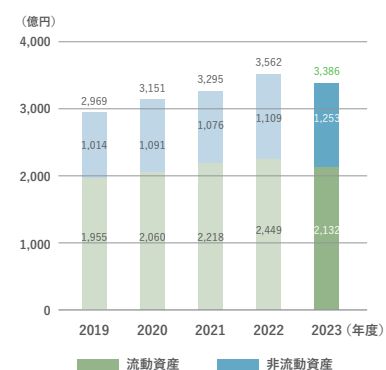
営業利益 / 営業利益率(億円)(%) [連結]



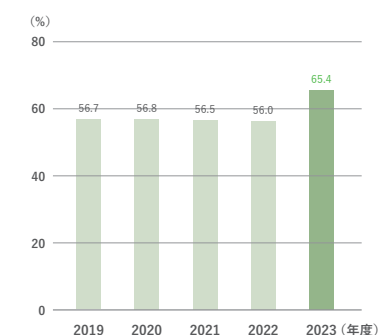
親会社株主に帰属する当期利益(億円)
自己資本当期利益率(ROE)(%) [連結]



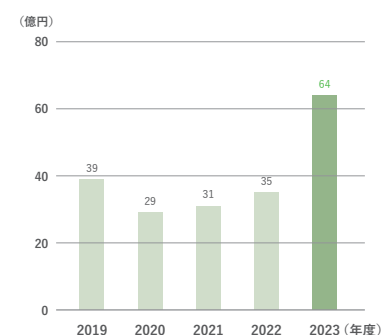
流動資産 / 非流動資産(億円)[連結]



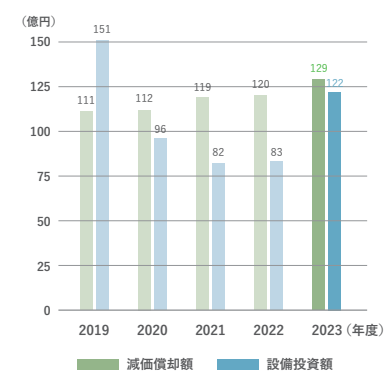
親会社所有者帰属持分比率(%) [連結]



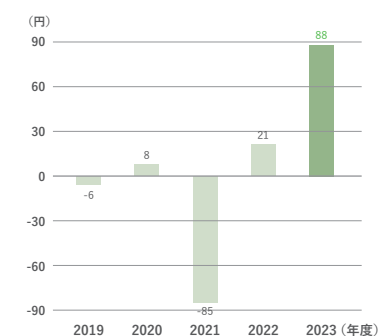
研究開発費(億円)[連結]



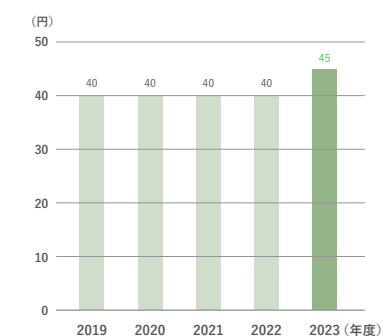
設備投資額 / 減価償却費(億円)[連結]



1株当たり当期利益(円)[連結]

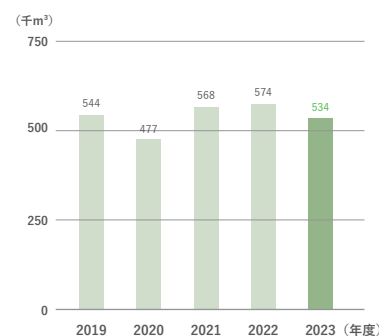


1株当たり配当金(円)[連結]

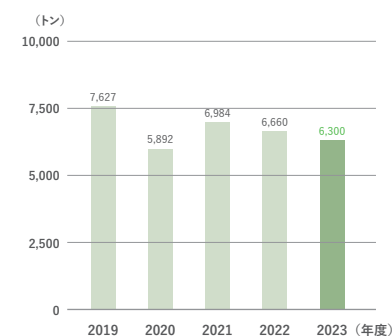


環境

排水量(千m³)[連結]



廃棄物排出量(トン)[連結]

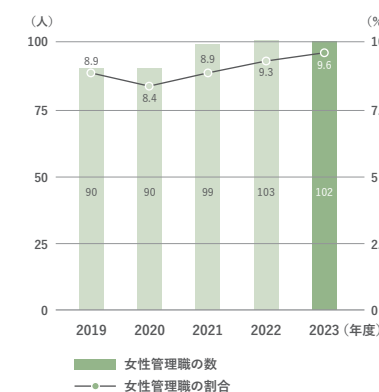


CO₂排出量(トン)[連結]

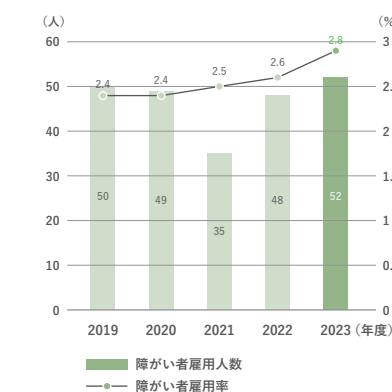


社会

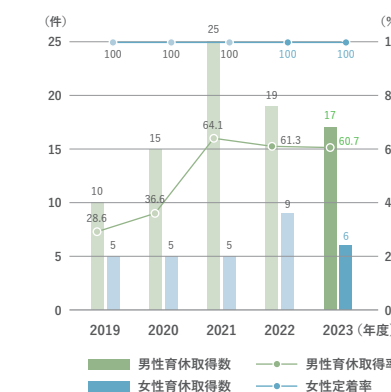
女性管理職数 / 割合(人)(%) [連結]



障がい者雇用人数 / 雇用率(人)(%)

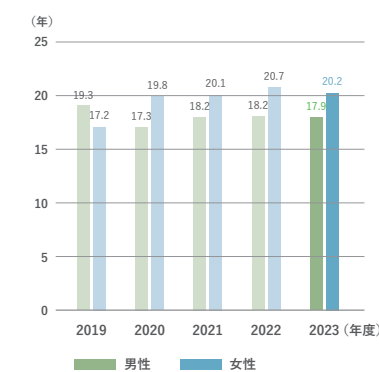


育休取得数 / 定着率(件)(%)

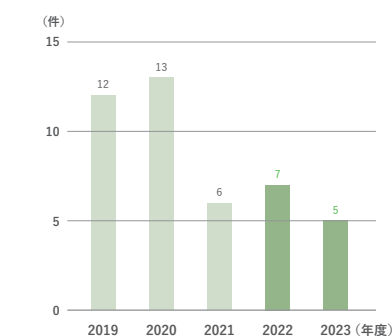


社会

平均勤続年数(年)



労災発生件数(件)



ガバナンス

特許取得件数(件)

